



タブレットの利用について

菊陽町の小中学校では、町が全ての児童生徒にタブレットを貸与しています。本町だけでなく、多くの自治体で同様の措置がなされています。学習ツールを効果的に活用することは、学びの定着や深化につながります。また、課題解決のために情報収集したり、学んだことを発信したりすることで、主体的に学ぶ力の育成にもつながります。上記のとおり、貸与されたタブレットの利用目的は、効果的に活用することで主体的に学ぶ意欲やICT機器の活用能力等の向上にあります。あくまでも学習での利用が目的です。合わせて、ICT機器活用についての危機管理や使用者のモラルについては、効果的な活用方法以上に学んでおく必要があります。正しく使えば便利ですが、誤った使い方はトラブルの原因となるからです。

目的を持って貸与してあるものであること、間違った使い方はトラブルにつながることを踏まえると、菊陽町や学校が示している利用方法を守る事は当たり前のことです。その当たり前を守る事ができていない以下のような事案が、本町だけでなく、多くの自治体でも問題となっているのが現状です。

①利用時間を守る事ができない。

学校での利用に関して教師の指示があってもやめることができない。やめるように指導すると暴言、暴力で返してくる。依存傾向にある。

②YouTube動画を好きな時間に勝手に見ている。

③アプリ等を利用した不適切な書き込み。

④電話ツールを活用して、夜中に友達と連絡を取り合っている。等

上記は、現在、多くの自治体で確認されている児童生徒が不適切に使用していた状況の主な内容です。本町でも、学習のために貸与しているものですので、児童個々が「いつ・何を見たのか・どんな使い方をしたのか」ということは、全て把握することができます。本校では、多くの児童が、決まりを守り、正しい使い方をしています。しかし、決まりを守ることができていない場合があることも事実です。中には、決まりを守らない児童に注意する情報モラル意識の高い児童もいます。

こうした現状を踏まえて、夏休みを利用して、学校でもタブレットを正しく利用するための決まりを改めて見直しました。先日、安心安全メールでお知らせしたとおりです。決まりを守る事ができないから使わせないのではなく、間違った使い方は、大きな問題や被害につながる可能性が高

いことを理解してほしいと思っています。危機管理意識とモラルの問題は、学校と家庭の連携が必須です。家庭でもご指導をお願いします。

チーム担任制の現状・・・

4年生上の学年でチーム担任制を導入して4か月が経ちました。先進的な実践校も少なく、試行錯誤の毎日です。その中で、各学年部の先生方が、児童の実態を考慮しながら、「児童が安心して学ぶことができる学校」「児童が、分かって楽しい授業」にしていくために、最大限の努力を重ねています。「子どもたちの貴重な1年は、決して取り戻すことができない1年である」ことを念頭に置いて、学習規律を身に付けるための共通実践や充実した教育活動の工夫改善を進めています。このことが、徐々に児童の規律面の向上という形で表れています。その1つが、話を聞く態度の変化です。「話を聞く」ことの意味、態度等を児童と一緒に考え、各学年で実践と修正を繰り返したことで、高学年の姿が変わってきています。高学年の姿が変わると、学校全体が変わってきます。まだまだ、若干の変化ではありますが、実践の効果は児童の姿で検証していくことを忘れずに取り組んでいきます。

7月に4年生上の児童に、チーム担任制についての現状をアンケートで聞いてみました。結果は8割の児童が肯定的に受け止めていました。しかし、肯定的でない児童も2割存在しています。この体制に不安を感じているということです。2割の児童が、何を思い、現状をどうとらえているのかということを分析して、対応策を考えていくことで、よりよいシステムの構築に繋げていきます。

挨拶運動



前期後半が始まりましたが、朝から気温が高い中、企画委員会の児童が挨拶運動を行っています。登校してくる児童に「おはようございます」と声をかけたり、簡単な会話をしたりしています。委員会の児童の挨拶に大きな声で返してくれる児童もいれば、ニッコリと微笑みを返したり、会釈で返したりと様々ですが、挨拶を返すということは習慣になっていると感じました。

挨拶は、1日の出会いの始まりです。声、表情、態度で相手の様子を知ることができます。そういうことに気づく感性を育てていきたいですね。私自身も気づく感性を磨き続け、そこで気になることがあれば、行動に移していきたいです。